

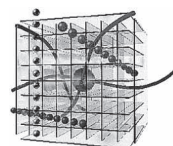
7

肺高血圧症における非侵襲的検査としての超音波診断の有用性

Yoshihito Saijo ◎ 西條良仁

Hirotsugu Yamada ◎ 山田博胤

徳島大学病院循環器内科



Summary

心エコー図検査を用いると、肺高血圧や右心機能を非侵襲的かつ定量的に評価することができる。肺高血圧症の診断には心臓カテーテル検査がゴールドスタンダードであり、右室の複雑な形態評価には心臓MRI検査が使用されているが、スクリーニングや定期的なフォローアップ検査としては、侵襲性や医療コストの面で心エコー図検査が有利である。さらに、近年、speckle tracking法や三次元心エコー図法などの新手法が開発され、右室の複雑な形態や右室機能の評価が試みられている。

Key words

- ◎肺高血圧
- ◎三次元心エコー図法
- ◎心エコー図検査
- ◎運動誘発性肺高血圧
- ◎Speckle tracking法

はじめに

現代の肺高血圧症の診療において、心エコー図検査は大きな役割を果たしており、日常臨床に欠かすことのできないツールとなっている。肺高血圧症の診断を確定するためのゴールドスタンダードは、あくまで右心カテーテル検査による肺動脈圧の実測であるが、侵襲的なカテーテル検査をスクリーニングに用いたり、繰り返し施行することは被曝のリスクがあり、また、医療経済的な面からも問題がある。心エコー図検査は、肺動脈収縮期圧(pulmonary artery systolic pressure : PASP)を非侵襲的に定量化できる唯一と言って良い方法であり、簡便で繰り返し施行することができる。そのような利点を活かして、①スクリーニング(早期診断)、②病因の鑑別診断、③重症度の評価、④治療効果の判定、⑤予後の推定、など多くの目的で利用されている。また、speckle tracking法や三次元心エコー図法などの新手法により、右心機能の詳細な評価も可能となってきた。本稿では、肺高血圧症における経胸壁心エコー図検査の所見とその解釈、留意点について、最近の知見を交えながら概説する。